

混合交通を観察する
DOCUMENT
series—224
Eye

(財) 交通事故総合分析センターの資料によると、平成19年に歩行中の交通事故で死傷した小学生の数は、9437人になる。そのうちの38.4%にあたる3624人(死者8人、負傷者3616人)が交差点で事故にあっている。

今回は、信号機のある交差点で、横断歩道を渡る小学生の左右確認状況を観察した。

WHY
小学生は横断歩道を渡る際、左右確認を行っているか?



●観察場所/ 東京都武蔵野市吉祥寺本町一丁目付近
●観察日/ 9月12日(金曜日)
●天候/ 晴れ
●観察時間/ 15:30~17:00
●観察者/ 5名

●信号機のある交差点で小学生の左右確認状況を観察する
**横断歩道を渡る小学生128人中
左右確認を行ったのは10人(7.8%)**



左右確認をせずに渡り始める子ども

WATCHING
親の後ろを追いかけて左右確認せずに横断する子ども

観察場所は、東京都武蔵野市・JR吉祥寺駅周辺の信号機のある交差点2カ所。観察時間帯には、ランドセルを背負って下校する小学生や塾生など外出



歩行者用信号が青点滅で渡り始め、途中で信号が赤に変わってしまった

観察地点では、歩行者用信号機が青に変わる際に「青になりました。左右の安全を確かめて渡りましょう」、青点滅になると「信号が変わります。無理な横断はやめましょう」と音声案内が流れる。交通量も比較的あり、歩行者用信号機が青の際に右左折する車両も多く観察された。

1時間半の観察で、横断歩道を渡った小学生は128人。このうち横断時に左右の安全確認を行ったのは128人中10人だった。歩行者用信号機が青で渡った小学生は114人、青点滅時が10人、赤信号も4人観察された。

小学生の多くは、歩行者用信号が青であることだけを確認し、左右の安全は確かめずに渡り始める子どもが多かった。信号が青に変わったとたん、走りだす低学年の子どもも見られた。

小学校高学年になると、友だち同士で歩く例も見られた。横断中に話をしながら歩く女の子5人組や、自転車2台を加えて5人で連れ立って横断する男の子のグループもいた。この男の子たちは、青信号で渡りはじめたが、横断歩道の真ん中で立ち止まり、赤信号に変わってもしばらく気づかずに会話に夢中になっていた。

母親や父親など大人と一緒に歩くと、手をつないだり、衣服を持ったりする姿が多かったが、保護する大人もほとんど信号だけを見て左右の安全を確認せず、中

には携帯電話をかけたが子どもは手を引く母親もいた。親の後ろをついて歩く場合も、左右確認を行わない子どもが多かった。母親が、青点滅の際に先に横断を開始したため、子どもが急いで追いかけて横断する姿も見られた。渡り切ってから子どもが「無理な横断はやめましょう」と母親に注意していた。

周囲を通行する大人の中には、横断歩道外で横断したり、ナメ横断をするなど、マナーの悪い姿も目立っていた。

PROPOSE
遊びながらの横断は危険。横断に集中を

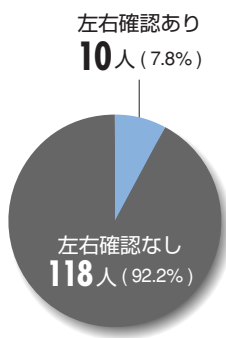
小学生の多くは、信号を守っている。しかし、左右確認を行う子どもはほとんどいなかった。さらに、友達や家族と一緒にいたり、遊びの要素が高まると、予想外の動きをすることがある。交差点では、歩行者用信号が青でも右左折するクルマが通る。遊びながら渡るのはなく、横断に集中し、安全確認を行う必要がある。

観察では、親子で手をつないでいても、親が安全確認する例は少なかった。また、お手本になるはずの周囲の大人たちもルールやマナーを無視している例が多い。大人は、まず手本となる行動を心がけ、



横断歩道外を歩く親子連れ

●信号機のある交差点での小学生の左右確認状況



※小学生の判断は観察者の見解による

	左右確認あり(○)	左右確認なし(×)	小計
青信号	8	106	114 (89.1%)
青点滅	1	9	10 (7.8%)
赤信号	1	3	4 (3.1%)
小計	10 (7.8%)	118 (92.2%)	128

子どもと一緒に歩く際には、ルールを守ること、しっかりと左右の安全を確認することを教えてあげてほしい。

子どもは、予想のつかない行動をしたり、体格が小さいのでドライバーから発見しにくいこともある。ドライバー側も、歩行者優先で安全確認をしっかりすることが大切だ。

子どもの交通安全に役立つ情報をホームページで紹介しています



Hondaのホームページでは、「親子で学び、考える 子どもの交通安全」というコーナーで、道路を渡る時のポイントなど、お子さまを交通事故から守るために知ってほしいことを紹介しています。

<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/child/>